安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画
策定・評価委員会　会議概要

1　会 議 名　　令和５年度　第３回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2　日　　時　　令和５年 11 月 22 日(水)　午前９時 30 分から午前 11 時 25 分
3　会　　場　　安曇野市役所本庁舎　３階　理事者側控室兼会議室
4　出 席 者　　磯野会長、細川副会長、土肥委員、百瀬委員、水原委員、宇都委員、大澤委員、夏目委員、山田委員、小澤委員、川﨑委員　　計 11 名
5　市側出席者　　沖市民生活部長、地域づくり課　保科課長、金子係長、平林主任、土橋主任
6　公開・非公開の別　　公開
7　傍聴人　０人　　記者　０人
8　会議概要作成年月日　　令和５年 11 月 27 日

協　　議　　事　　項　　等

1　概要

（1）開会
（2）あいさつ
（3）報告事項
①学習会（11/２）の概要について
②市民活動サポートセンター事業実施状況について
（4）協議事項
① 第３次計画（案）について

【ご意見等】
（委員）
・施策の取組に市朗人大学や県シニア大学を入れたのは良い。人材の確保をどうするか。
・シニア大学も専門コースの参加は費用がかかる。経済的な支援があると参加を促せるのではないか。
・朗人シニア大学の卒業生を地域でどのように活かしていくか重要である。
（事務局）
・計画の中に経済的な支援を入れることを難しい。センターでできるのは参加を促すこと。
・自分が楽しむことは最初の入口で、そこから地域貢献活動への発展につなげるコーディネートができるのではと思う。
（委員）
・朗人大学の目的は、①生きがい・仲間づくり、②学んだことを地域での活躍の場に結び付けていくことである。今後は朗人大学卒業生が朗人大学の講師をしてもらうことも検討している。
（副会長）
・朗人大学やシニア大学は生涯学習の事業である。
・地域と社協と公民館が一緒になっていることが大事。基本施策３に公民館を入れられないか。
（委員）
・入れるなら、公民館と市社協等、のように表現を変えればいいと思う。多くの人が「私に関係が

ある」と思ってもらえるような施策や取組になればと思う。

（委員）

・P19 の基本施策２の主な取組で４つ目の取組で「シニア世代が学びを通じて社会参加へのきっかけを～」⇒「シニア世代が学びを通じて活動へのきっかけを～」の方がいいのではと思う。

・計画内に記載されているコーディネート支援する人は誰なのか不明確である。コーディネートできる人材の確保が大事。

（事務局）

・公民館関係は、基本施策２に入れているので表現できていると考えている。基本施策３の中に公民館関係をどう入れていけばいいか悩むところである。

・現状では職員がコーディネートする。P24 に協働コーディネーターの育成を入れている。

（委員）

・P19 の基本施策３で「市民の」「市民が」「市民による」となっており、表現が少しずつ違うため統一した方がいいと思う。

・P24 の委員会名は、「つながりひろがる」を入れるなど、柔らかい名称にできないかと思う。

（事務局）

・補足で、第２次計画では、市民、市民活動団体、教育機関、市、企業、区など自治会の６つの主体を定義していたが、第３次計画では主体を定めていない。今回の計画では、Ｐ３で「市民」はそれぞれの主体を全て含んでいると説明書きを入れている。

（委員）

・P17 のイメージ図だが、３つの基本方針を縦並びではなく、正方形にして、３つを回るように表現した方がよい。

（委員）

・Ｐ３の③「対等」の意味が分かりづらいことや⑤「公共サービス」は「行政サービス」ととらえられてしまう可能性がある。

（副会長）

・個人的にはＰ３の③「対等」の意味は、このままでいいと思う。

・Ｐ３の⑤「公共サービス」は「公益事業」または「公益サービス」に変更すればいい。

（会長）

・１枚で分かるポンチ絵のようなものが最初にあると良い。

（事務局）

・学習会でも意見が出た。ポンチ絵は難しいが、１枚で分かる概要版は作成する。

（委員）

・盛り沢山で全部職員ができるのか心配。ＳＤＧｓのように最終的なゴール（こういうライフスタイル etc.）が示されているといい。

・施策や取組に企業があまりない。再生産が重要。忙しいファミリー、子育て層に向けた施策や取組がもう少しあってもいいのではと思う。

（委員）

・P16 で、物事は人の生活スタイルによってどこからスタートするか変わると思う。それが P17 のイメージ図だと思う。

・今回、若者向けにどうするか話題が乏しい。大学で首都圏に行かず地域に定着してほしい気持

ちがある。P19 基本施策３の主な取組の２つ目の取組に大学を入れてほしい。

（事務局）

・基本施策３に大学について入れる。

・若者向けの取組でいうと、P21 で新たに若者まちづくり会議（仮称）を入れている。

・大学生のインターンを受け入れる際、会長に取材をお願いし、自治会について学んでいていただいている。学ぶと学生に気づきが多い。

（委員）

・区に若者が残ってもらうために、お祭りの部門で青年会を立ち上げ、企画から運営まで関わってもらっている。興味のあることに関わってもらうことが大事である。

（委員）

・Ｐ３はイメージ図だと分かりやすいのでは。

・今回指標を削除したが、振り返りや評価の方法はどうするのか検討した方がいい。例えばアンケート結果の数値をどれくらい上げるなど。

（事務局）

・第２次計画はかなり具体的な施策内容で、計画に縛られてしまうことが課題であった。今回は動きやすいよう、施策内容を具体的になりすぎないよう表現している。

・第２次計画はＰＤＣＡサイクルとしていたが、委員会でも評価することが難しいとのご意見を度々いただいていた。協働は定量的な評価をしにくいため、取組を都度委員会に報告し、意見をいただく中で振り返り、更に改善して取り組んでいくという仕組みに変更した。

（委員）

・社会全体として、同世代でのつながりはあるが、世代間でのつながりは少ないと感じている。

（委員）

・大学のインターン生と話す中で区の紹介をしたら、とても関心を持ってくれた。また、大学卒業後も区などの地域活動に関わりたいという感想をもらった。区が大学等とつながる機会を持てるように推進することはとても大事なことである。

（副会長）

・実態として高校生、大学生が地域を知らずに社会人になっている。学生と地域とのつながりは、大学側からのアクションも必要ではないか。

（委員）

・学生時代、ボランティア活動に参加した。単位がもらえるメリットがあったからだが、参加すると、色々な人とつながれて、大変良い経験になった。

（委員）

・計画に「高校、大学に市民活動団体やボランティア情報の提供」という取組を入れると、つながることができると思う。

・「ゆるつな」も世代間交流の場になる。「誰でも気軽に参加」を「いろいろな年代が参加」、と書くと良いのではないか。

（委員）

・コーディネーターをしていて思うことは、相手に理解してもらうことが大事だと実感している。

・農業を中心とする活動が高齢化しているが、秋から南安曇農業高校と連携することになった。ぜひ取材してほしい。

・この計画は５年間なので、重点施策があるといいのではないか。

（委員）

・学生が地域のボランティア活動に参加すると、単位とまではいかなくても何かメリットがあるといいと思う。

（委員）

・今の学生が求めていることは「ガクチカ＝学生の時に力を入れたこと」である。何か証明があるわけではないが、エントリーシートに書けたり、面接で話したりすることができる。

・今の学生には、そういう社会経験が乏しいと感じているため、そういう機会が沢山あると良い。

（委員）

・学生の中でも様々な活動をしている人はいると思う。周りにコーディネートしてくれる人やそういった場があると、学生は「地域づくりに参加していた」、と気づける。

（委員）

・協働の概念が分かりづらいということだが、今の若者は、「協働」ではなく「コラボ」、「地域社会」ではなく「地元」という。若者に理解や共感を得るには言葉の使い方も大事。

（５）その他

・今後の日程の確認。

（委員）

・第８回こどもしおじり（子どもたちが楽しみながら街や仕事を知り、体験するイベント）の紹介。12/9（土）、12/10（日）午前 10 時～午後４時　塩尻市市民交流センター「えんぱーく」

（６）閉会